

令和7年度

自己評価・学校関係者評価 報告書

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域を理解し、互いを尊重する心を育てる高校として 探究的な学びや、きめ細かな授業と進路支援を通して 主体的に行動し、地域社会にかけがえのない人の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	「知・徳・体」の調和のとれた、人間性豊かでたくましく生きることのできる生徒の育成 1 知：学力の向上 2 徳：人間力の育成 3 体：活力の高揚		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	・広い視野と確かな学力をもち、自ら見出した課題に、粘り強く取り組むことができる生徒 ・自分の良さや可能性を認識し、コミュニケーション能力を発揮して、多様な人々と協働できる生徒 ・心身の健康を常に心掛け、自律的な生活ができる生徒	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	・基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、地域との連携を大切にして「探究的な学び」を推進 ・すべての教育活動において共感的な人間関係づくりを進めるとともに、「対話を重視した、楽しくわかる授業」を推進 ・校内外の活動における主体的な取り組みを支援することで、「自ら考え行動できる力」の育成を推進	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・自己実現に向けて、学習に取り組み、何事にも挑戦したいという熱意のある生徒 ・自他を尊重し、人とのつながりを大切にする生徒 ・地域の一員として自覚をもち、自主的な活動に積極的に参加したいという意欲のある生徒	
学校の抱える課題	・生徒のICT環境の活用推進。総合的な探究の時間の充実と指導体制の確立。（教務） ・いじめ事案において関係生徒とされる対象が不明瞭である場合の対応の困難さ。努力義務下でのヘルメット着用率が低い状況。（生徒指導） ・生徒の学びに向かう姿勢の育成。複雑化する大学入学試験の情報のわかりやすい伝達。（進路） ・生活習慣病、視力低下の増加。保健室頻回来室者の悩みの複雑さ。様々な持病を有する生徒への対応。＜緊急治療薬所持者の増加：エビペン5名・バクスマー1名、難病指定疾患の増加＞（健安）		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	(1)授業を大切にします。 (3)学習に向かう姿勢を育みます。 (2)基礎学力を身に付けます。	
	生徒指導	(1)心の結び付きを大切に育みます。 (2)信頼され協働し活躍する場面を作ります。	
	進路指導	生徒一人一人が、ふさわしいキャリアを形成し自立していけるように、意欲・態度・能力を育成します。	
	保健管理	(1)「生きる力」をはぐくむ指導をとおして健康で安全に生きるための知恵と実践力を養い、心身ともに健康的に生きる生徒を育成します。 (2)自ら安全で快適な学習環境づくりと校内美化に努め、より良い環境で生活するための知恵と実践力を備えた生徒を育成します。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	生徒がICT環境を活用できるよう推進する。	施策Ⅱ-9	(1)「生徒及び保護者アンケート」の「学習指導」に係る肯定的な評価が80% (2)「授業アンケート」を通して、生徒の自己評価と授業評価を行い、授業の質的向上を図る。 (3)総合的な探究の時間における「生徒アンケート」において、肯定的な評価が80%	・各教科会や年次会で授業の在り方について情報共有し、日々の授業実践を行った。 ・「生徒及び保護者アンケート」の「学習指導」に係る肯定的な評価は、生徒は90%強で保護者は80%強であった。外部との連携に係る内容は生徒75%、保護者60%程度にとどまった。 ・総合的な探究の時間における「生徒アンケート」の肯定的な評価は、3年間全体の活動については85%、「地域探究課題」の活動については80%程度であった。	B	○観別評価の方針の改定 ○シラバスの作成と活用 ○病気療養者及び長期欠席者への遠隔教育 ○定期考査のデジタル返却 ○高校入試独自選抜の拡大 ○総合的な探究の時間の運営打ち合わせ会の定期的な実施 ○警報時のオンライン学習支援 ○生徒対象授業アンケート2回実施 ○全職員のICT活用公開授業の実施 ▲ICT環境の授業への活用推進 ▲総合的な探究の時間の運営の組織化とその広報	
	一人一人に合う到達目標を定め、目標実現につながる授業を行う。	施策Ⅱ-8					
	協働して学び、考えを深め合える授業を行う。	施策Ⅱ-8					
	探究の仕方を学び、地域課題を探究する。	施策Ⅰ-4					
生徒指導	職員と生徒、生徒と生徒が信頼関係を築ける時間、積極的に対話を重ねる時間を設け、その信頼感の上に立って、ルールやマナーを指導する。	施策Ⅰ-1	「生徒及び保護者アンケート」の「規範意識の育成」「豊かな人間性の育成」「自主性・主体性の育成」に係る肯定的な評価が、全て80%以上	「生徒及び保護者アンケート」のいじめの対応については、生徒からは90%以上の肯定的な評価を得たが、保護者からは70%に届かなかった。保護者において「わからない」という回答が30%程度あるため、生徒の様子について保護者と共通認識を持つ必要性を感じる。今後も、早期発見・未然防止に努めていきたい。問題行動や一方的ないじめ行為は多くないが、コミュニケーション不足による人間関係のトラブルに悩む生徒が見られる。未然防止、早期発見に努めるとともに、生徒間の絆を深める取り組みを推進したい。	B	○人権講話では、多様性を認め合える人権意識を培うことを目標とし、岐阜盲学校の教諭より話を聞いた。質問を積極的にする様子もあり、生徒の感想も理解が深まったという内容がたいへん多かった。こういった情報も保護者と共有していきたい。 ▲授業への積極的な参加については、まだまだ改善の余地がある。授業改善を進め、充実感や達成感から自己有用感を感じさせていきたい。	
	多様性時代であることを理解し、相互に配慮し合って生活するための人権意識を育成する。	施策Ⅰ-2					
	スクールカウンセラー、スクール相談員と連携し心のケアを行うとともに、「いじめを絶対に許さない学校」であり続ける。	施策Ⅰ-3					
	自分らしさを発揮しながら、自ら進んで取り組める行事や機会を提供し、教科指導では授業中に生徒が活躍する場をつくる。	施策Ⅰ-1					
進路指導	個々の生徒の進路希望に応じた学びを実施する。補習、小論文面接指導、実力試験、模擬試験を実施する。	施策Ⅱ-8	(1)模擬試験等の結果から、進路目標を達成するための力が身に付いているかを判断する。 (2)講演会や各種体験等に対するアンケート結果から、進路意識が高まっているかを判断する。	・小論文面接指導では、職員全員で分担し、個別指導を行いきめ細やかな指導を行うことができた。 ・各種進路講演会を実施し進路に対する理解を深めることができた。 ・若手教員による教職説明会、幼児園体験、看護体験、数楽校（うがくこう）ボランティアに多くの生徒が参加し、キャリア意識を高めることができた。 ・LHRの時間を通して、進路のしおり等を使った指導を行った。	B	○面接・小論文指導を行いきめ細かい指導を全職員体制で行うことができた。 ○進路講演会を保護者も参加し行った。多くの保護者が参加し、入試制度などの仕組みについて理解を深めた。 ○各種ガイダンスでは、各自の興味のある分野について理解関心を深め、進路意識を高めることができた。 ▲模試等の結果から、早めに進路に対する意識を高め、志望校への受験指導をしていく必要がある。	B
	出前授業や進路講演会等を実施し、将来の夢や職業について考えさせる。	施策Ⅱ-13					
	小学生に算数を教えるボランティア、幼児園実習、ふれあい看護体験を通して、地域を知る。	施策Ⅰ-4					
	LHR等で進路について考える授業を実施する。	施策Ⅱ-8					
保健管理	健康診断の事前・事後指導を徹底する。	施策Ⅲ-16	健康診断後の受診率50%以上	12月末の受診率44.3%、途中経過は一番良い 検診後クラス全体への通知と個人宛(11月)の通知を実施	B	○むし歯(放置者)への通知にコメントを添え、三者懇談で個人宛に配布 ▲通知後の積極的な呼びかけもクラス担任へお願いしたい	
	食物アレルギー対応シミュレーションを実施する。教職員研修（エビペン）を実施する。	施策Ⅲ-17	生徒の食物アレルギー等相談・対応率80%以上	アレルギー対応委員会、シミュレーション研修は動画研修に変更して実施		○学校医、薬剤師の方から肯定的な意見を頂けた ▲緊急時対応の研修は継続が必要 エビペン以外にバクスマー等も追加していく	
	適切な換気を徹底し、感染拡大を防ぐ。	施策Ⅲ-18	換気徹底率（CO2モニター・サーキュレーター利用）100%	保健委員によるCO2測定、年3回。(3回測定済全て基準値内)学校薬剤師による点検(年3回、換気・空気全て基準値内)サーキュレーター利用100%		○換気の徹底により感染症による学級閉鎖は1日のみ 換気は感染拡大の対策として有効なので継続していく	
	異なる危険を想定した命を守る訓練を実施する。(年間3回)	施策Ⅲ-19	「生徒及び保護者アンケート」の「地震や火災、台風等の対策」に係る項目の肯定的な評価 80%以上	命を守る訓練(年2回、避難経路の確認・地震)実施済み。高校生防災アクション(減災力テスト)実施		○学校で実施する防災の取り組みから、それぞれの家庭や地域へと繋げる (防災備蓄や地域の防災訓練などへの参加)	

来年度に向けての改善方策等	実施日：令和8年1月9日	学校関係者評価	実施日：令和8年1月27日
・授業でのICT環境の活用推進を進める。総合的な探究の時間の運営の組織化を図る。 ・豊かな人間性を育むための生徒に対する支援や指導を継続し、保護者への周知と理解を求めていく。 ・進路意識を高めるため、模試等の結果から、早めに志望校への受験指導をする。生徒だけでなく保護者に対する説明会を実施していく。教員間でも入試対策法等を共有する。 ・健康診断後の受診率向上のための方策（多様な呼びかけ方法）を進める。アレルギー対応のシミュレーション研修を続ける。		・学校の理念が浸透し、教職員が一体となって学校改革を推進している。 ・ICT環境は整いつつあり、教育効果も期待されるが、タブレットの日常的活用や管理が今後の課題である。 ・生徒指導、安全対策で自転車通学や送迎時の安全意識に課題があるので呼びかけの継続が必要。一方、いじめ対応など思いやりを育む指導を継続してほしい。 ・論文・面接指導を含む進路指導の取り組みが成果を上げており、生徒の学びを支える体制が確立してきている。 ・職員の健康・保健体制に関する研修で、アレルギー対応や救命研修など、生徒の健康と安全を守る取り組みが継続的かつ適切に進んでいる。	